

2015年度「森泰吉郎記念研究振興基金研究者育成費」研究成果報告書  
シティズンシップ教育における生徒会活動の可能性－高等学校の生徒参画に着目して－

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科  
修士課程2年 西野偉彦

## 1. 研究概要の紹介

本研究は、高校の生徒会活動をテーマにしたシティズンシップ教育のプログラムを考案し、生徒の「政治的リテラシー」の習得について明らかにするものである。シティズンシップ教育とは、若年層が政治リテラシーの習得やコミュニティへの参加等を通じ、「民主主義社会の構成員として自立した思考と判断を行い、意思決定に能動的に参画する資質を育む教育」(小玉,2015)である。90年代以降、欧州各国の高校教育では概ね、シティズンシップ教育として授業科目と生徒会活動が位置づけられている。日本でも、シティズンシップ教育の授業科目については、「18歳選挙権」や新科目「公共」の検討等を背景に、高校学習指導要領に反映される可能性が高まってきた。他方、生徒会活動については、シティズンシップ教育の役割の一翼を担うために戦後学校教育で導入されたにもかかわらず、学術的・政策的な研究が十分に行われてこなかった。そこで、本研究では、生徒会活動をテーマにしたシティズンシップ教育の授業プログラムを考案し、実際の高校に協力を得て実施・検証してみた。

## 2. 研究成果と今後の展望

本研究では、シティズンシップ教育に関するイギリスとドイツの理論と事例を参考に、シティズンシップ教育の中核に位置する「政治的リテラシー」を「社会における多様な考え方、価値、利害を共存させ、それらの創造的な調停を行うための意思決定としての政治に参加する市民として必要な能力」と定義した上で、独自の主権者教育プログラム「社会的意思決定学習」を考案し、実際に東京都内の2つの高等学校の協力を得て実施した。本プログラムによって、高校生は政治的リテラシーを習得する可能性があるのか、多面的に検証することを通じて、その効果と課題について明らかにした。

本研究によって得られた知見は、以下の通りである。(1) 高校生は、学校生活等の身近な課題を取り上げた授業プログラムによって、政治的リテラシーを習得することができる(2) 高校生は、児童会・生徒会役員等の「意思決定の経験」の有無によって、政治的リテラシーの習得に違いがある(3) 高校生は、志望進路(文系・理系)によって、政治的リテラシーの習得に違いがある(4) 高校生は、「偏差値50程度」以上であれば、学力(偏差値)に関わらず、政治的リテラシーの習得に違いがないという4点である。

以上のような研究成果をもとに、修士論文を執筆することができた。

最後に、森泰吉郎記念研究振興基金からいただいた助成に心より御礼を申し上げる。

以 上